

デンジソウ

Marsilea quadrifolia L.

国内分布：本州～沖縄

孢子嚢果のある時期：8～11月

浮葉植物

抽水浮葉

在来種

四つ葉のクローバーにそっくりな、水田、池や沼に生える多年草。漢字で書くと「田字草」で、4枚の小葉が「田」の字に似ているから。かつては水田雑草だったが、現在では極めてまれ。この植物を見つけたら四つ葉のクローバーを見つけるよりも、きっと幸せになれるに違いない。



①生育の様子。②葉の根元には孢子が詰まった丸い孢子嚢果（ほうしのうか）が付く。

サンショウモ科

オオサンショウモ

Salvinia molesta D.S.Mitch.

国内分布：本州・沖縄

浮遊植物

外来種

南米原産で観賞用に栽培される。温暖な地域では、水路や池で爆発的に増える。密についた葉が二つ折りになった姿は、在来のサンショウモとは全く異なる。3枚の葉が輪生し、そのうちの2枚が浮葉となる。



①成熟し葉が二つ折になったオオサンショウモ。未熟な個体は葉が二つ折りにならない。②サンショウモ。オオサンショウモより小ぶりで水田やため池に生育する在来種。③オオサンショウモの葉の表面の毛。1束4本で先端が連結する。④サンショウモの葉の表面の毛。先端は連結しない。

サンショウモ科

アイオオアカウキクサ

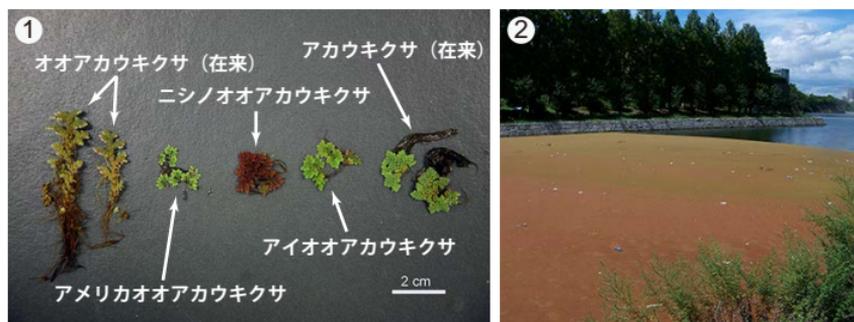
Azolla cristata Kaulf.
x A. filiculoides Lam.

国内分布：本州・四国・九州

浮遊
植物

外来種

湖沼、ため池、水田などに生育するシダ植物。群生して水面がオレンジから赤く染まった景観は異様。外来種であるニシノオオアカウキクサとアメリカオオアカウキクサの人工雑種で、これらをまとめて「外来アゾラ」と呼ぶ場合もある。



①アカウキクサの仲間の比較。とてもよく似ている。②池の一面に群生する様子。

イノモトソウ科

ヒメミズワラビ

Ceratopteris gaudichaudii Brongn.
var. *vulgaris* Masuyama et Watano

国内分布：山形県以南～沖縄

孢子葉のある時期：8～11月

抽水
植物

在来種

池や沼、水田に生育する一年草。かつて日本国内のものは全てミズワラビとされてきたが、熱帯に分布するミズワラビと温帯に分布するヒメミズワラビの2種に分けられた。本州から九州にはヒメミズワラビのみが分布し、沖縄には両種が分布する。



①②葉の切れ込み方は様々。ヒメミズワラビを探すなら稲刈り後の水田がオススメ。

ハゴロモモ科 (ジュンサイ科)

ジュンサイ

Brasenia schreberi J.F.Gmel.

国内分布：北海道～九州

開花時期：6～8月

浮葉植物

在来種

湖沼、ため池に生育する多年草。落ち葉が溜まって水の色が茶色くなった池や貧栄養な水辺に、ヒツジグサやフトヒルムシロと一緒に生えていることが多い。風で花粉を散布する風媒花をつける。葉の裏や茎、若芽は寒天質の粘液に覆われており、ヌルヌルしている。



花は①まず雌しべが、②次に雄しべが伸びる。③葉は楕円形。④若芽は食用。著者は酢醤油で食べるのが好き。

ハゴロモモ科 (ジュンサイ科)

ハゴロモモ

Cabomba caroliniana A.Gray

国内分布：北海道～九州

開花時期：7～10月

沈水植物

外来種

湖沼やため池に生育する多年草。別名フサジュンサイ。鑑賞用に持ち込まれたものが逃げ出し、各地で野生化している。「カボンバ」として売られている水草は本種。細かく切れ込んだ沈水葉は美しく観賞価値は高いが、水の底が見えないほどに群生する様子は全く可愛らしくない。



①白い花が水面から立ち上がる。花の咲く頃には小さくて細長い浮葉をつける。
②沈水葉は細かく切れ込んで扇状になり対生する。

オニバス

Euryale ferox Salisb.

国内分布：本州～九州

開花時期：7～9月

浮葉
植物

在来種

湖沼やため池に生える一年草。成長した浮葉は直径2mを超えることも。全体に鋭い刺があり、採集する際には厚いゴム手袋を着用しないと血まみれになるので要注意。花は水面に出て咲く開放花と、水中で閉じたまま実る閉鎖花があり、開放花はほとんど実らないことが知られている。



①オニバスの花（開放花）、②葉はとても大きい。表面がでこぼこしている。

コラム：ひょっこり出てくるオニバス

水草の中には埋土種子をつくるものがあります。埋土種子とは、発芽能力を維持したまま土の中で眠っている種子のことです。オニバスも埋土種子をつくる植物で、あるときひょっこりと埋土種子から発芽した株が出てくることが知られています。写真のオニバスは小林智さんと小林温さんが発見したのですが、前年までは同じ場所にオニバスはなかったそうです。この場所は大阪市内の住宅地のど真ん中。空き缶が写っていることから良い環境ではなさそうです。この川では1998年にオニバスの生育が確認されており、写真のオニバスは埋土種子から発芽したのだと思います。埋土種子の寿命は永遠ではなく、オニバスの場合、数十年だろうと推定されています。



大阪市東住吉区の今川でひょっこり出てきたオニバス。2013年7月31日撮影。

コウホネ



Nuphar japonica DC.

国内分布：北海道～九州

開花時期：6～10月

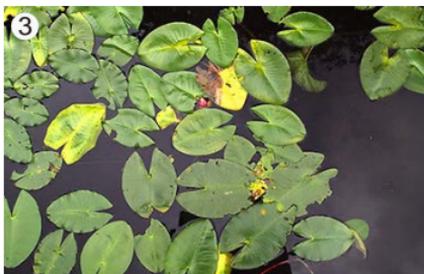
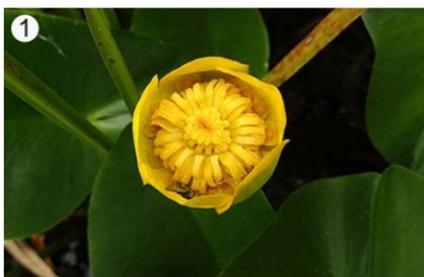
沈水植物

浮葉植物

抽水植物

在来種

湖沼、ため池、河川、水路に生育する多年草。太い地下茎の先に、黄色い花と矢じり型の葉（沈水葉・浮葉・抽水葉）をつける。北日本ではよく出会うが西日本では珍しい。抽水葉は大きいものでは、30cm 以上。生育地の水深は 1m を超える場合もある。採集には胴長靴を忘れずに！



①②③近縁種のサイコクヒメコウホネ。西日本に多い。葉は卵形で抽水葉をつけることも。④近縁種のオグラコウホネ。葉は卵形で浮葉しか出さない。⑤コウホネ。⑥コウホネの沈水葉（左2枚）と抽水葉（右）。⑦オグラコウホネの地下茎。白くて骨にも見える地下茎は漢字の河骨（かわほね）の語源になったとされる。乾燥した地下茎は薬用になる。

スイレン科

ヒツジグサ

Nymphaea tetragona Georgi var. *tetragona*

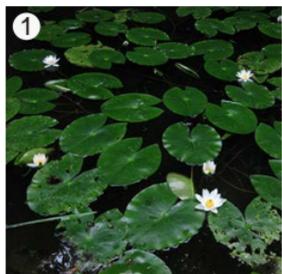
国内分布：北海道～沖縄

開花時期：6～11月

浮葉植物

在来種

湖沼やため池、湿地に生える多年草。名前の由来は「未(ひつじ)の刻(午後2時頃)に花が咲くから」とされるが、朝から咲くこともある。花は咲き終わると、水中に沈み、果実が実る。スイレンの仲間の写真や絵画は数多くあるが、花と果実が一緒に見られないのはこの特徴のため。



①浮葉と花。葉の形は卵形。②花。がくは4枚だが、花びら、おしべは多数で数は決まっていない。③水中で撮影した芽生え。芽生えのときは薄い沈水葉だけ付ける。

スイレン科

園芸スイレン

Nymphaea cv.

国内分布：北海道～沖縄

開花時期：6～10月

浮葉植物

外来種

園芸スイレンとは海外のスイレン属の野生種の交配によってできた園芸種の総称。花は大きく、色も様々で美しい。公園などに植栽され、身近な水草の一つ。しかし、ひとたび湖沼やため池で野生化すると水域を覆いつくし、在来の水草や生態系に甚大な被害を及ぼす。



①②③葉は丸く、赤色や黄色の大きな花をつける。④ヒツジグサと園芸スイレンの地下茎の比較。ヒツジグサの地下茎は横には伸びないが、園芸スイレンの地下茎は横に伸びる。そのため園芸スイレンは水面を覆いつくすように葉を出す。

シヨウブ科

シヨウブ



Acorus calamus L.

国内分布：北海道～九州

開花時期：5～6月

抽水
植物



在来種

湖沼、ため池、水路に生育する多年草。剣状の葉は地下茎の先端につき、独特の匂いがある。端午の節句の菖蒲湯に使うのはこの植物の葉であり、アヤメ科のハナシヨウブは全く別の植物。太い軸にびっしりと敷き詰められたように花がつく花序の様子はルーペで拡大して見るとよくわかる。



- ①花序の拡大。小さい花がたくさんつく。
②葉には筋が1本ある。③全体の様子。



サトイモ科

特定外来生物

ボタンウキクサ



Pistia stratiotes L.

国内分布：関東以西～沖縄

開花時期：7～10月

浮遊
植物



外来種

別名ウォーターレタス。爆発的に増殖し、湖沼やため池、河川の水面を覆いつくす。船の航行の邪魔になるほか、冬になって枯れると水底に堆積し、二枚貝などの水生生物に大きな影響を与える。温水が流れ込んでいたり、湧水がある場所では越冬する可能性がある。



- ①葉は大きく毛が密生。葉の付け根にある白くて丸いのが花。「レタス」と付くがシュウ酸カルシウムを含み食べられない。②小さな株。③水面を覆い尽くすことも。

ウキクサ

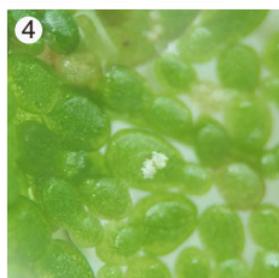
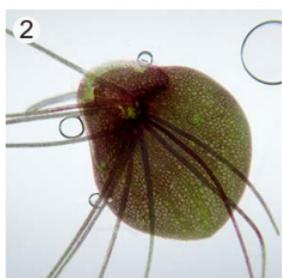
Spirodela polyrhiza (L.) Schleid.

国内分布：北海道～沖縄

浮遊
植物

在来種

湖沼、ため池、水田や水路に群生する多年草。最もよく見る浮遊植物の一つ。葉だけが浮いているように見えるが、これは葉と茎が融合したもので葉状体と呼ばれる。円形から卵型の葉状体から複数の根が出る。よく似たアオウキクサやコウキクサなどのアオウキクサの仲間もよくも見かけるが、葉状態ごとに根が1本なので区別可能。まずは根を見てアオウキクサの仲間とウキクサを区別できるようになろう。



①ウキクサ。アオウキクサの仲間よりも大きい。②ウキクサの根。葉状体から複数本出る。③アオウキクサの仲間の根。1つの葉状体から1本だけ出る。写真はナンゴクアオウキクサ。④開花したミジンコウキクサ。葉状体は1mm以下で根はない。世界最小の種子植物。開花は珍しい。

ヘラオモダカ

Alisma canaliculatum
A. Braun et C. D. Bouché ex Sam. var. *canaliculatum*

国内分布：北海道～沖縄

開花時期：7～9月

抽水
植物



在来種

湖沼、ため池、水田などに生育する多年草。葉は名前の通りヘラ型をしていて柄との区別がはっきりしない。よく似たサジオモダカは葉が「サジ」の形になる。「ヘラ」の形はすこぶる多様で、どこまでがヘラでどこからかサジなのか悩むことも。花茎は枝を3本ずつ出して何段か輪生する。



コラム：オモダカの仲間の葉

オモダカ科の植物の葉の形は、矢じり型、へら型、卵型などがあり、変異に富みます。葉の形が和名や学名に関係していることもあり、オモダカの仲間のグループを大まかに見分ける場合に葉の形が参考になります。まずは葉の形を覚えると良いですが、芽生えのときはみんなウリカワのような細い葉をつけます。葉の形だけで名前を決めると間違ってしまうので注意しましょう。





国内分布：北海道～沖縄

開花時期：7～10月

抽水
植物

在来種

湖沼、ため池、水田に生育する多年草。コナギ、ウキクサ、ア
オウキクサと一緒に水田でよく見られ、日本の田んぼの不動のレ
ギュラーメンバー。矢尻形の葉が特徴的だが、春先の葉は細長く
でウリカワやコナギと紛らわしい。



①オモダカの全体像。②雄花。③雌花。④前年にできた塊茎から成長したオモダカ。食用のクワイはオモダカを栽培化したもので肥大した塊茎を食べる。⑤同じオモダカ科のマルバオモダカの花。花びらの縁がギザギザ。葉は隣のコラム参照。⑥オモダカによく似たアギナシは根元にむかごが付くのが特徴。⑦ウリカワ。細い葉は包丁でむいた瓜の皮のよう？

スブタ

Blyxa echinosperma (C.B.Clarke) Hook.f.

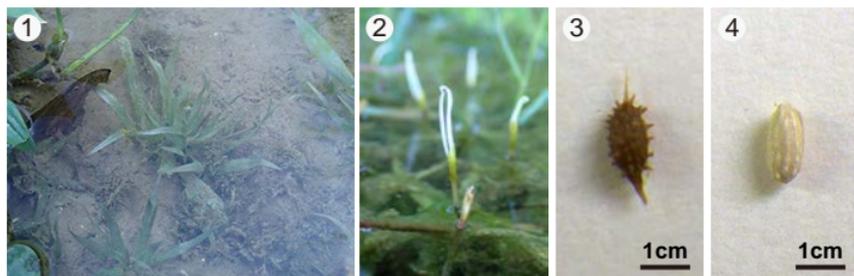
国内分布：本州～沖縄

開花時期：7～10月

沈水
植物

在来種

ため池や水田に生育する一年草。茎は目立たず、根生葉が出る。細長い葉の先端は鋭く尖る。農薬が普及する前は田んぼで普通にみられたと言われるが、今では極めてまれ。よく似たマルミスブタとは種子の突起で区別する。名前の由来は中華料理とは関係が無い。



①浅い水中に生える。②花。花びらは白くて細長く完全に開かない。③スブタの種子。突起が目立つ。④マルミスブタの種子。突起がない。

トチカガミ科

ヤナギスブタ

Blyxa japonica (Miq.) Maxim. ex Asch. et Gürke

国内分布：本州～沖縄

開花時期：7～10月

沈水
植物

在来種

ため池や水田に生育する一年草。茎が伸び、細長い葉が互生する。水面からちょこんと出た白い花を見つけることができるちょっと嬉しい。めずらしい植物ではあるのだが、スブタやマルミスブタの方が少ないので、近づいてみてヤナギスブタだった時はちょっとがっかりする。



①生えている様子。②スブタの茎はほとんど伸びず、水底から葉を出す。ヤナギスブタの茎はよく伸び、よく枝分かれする。③花を咲かせた株。花弁は3枚。

クロモ



Hydrilla verticillata (L. f.) Royle

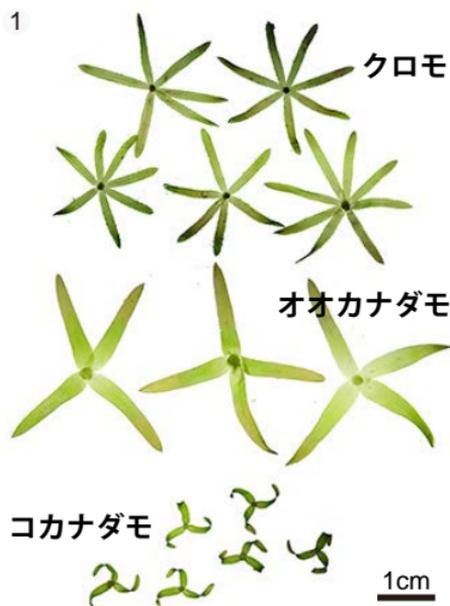
国内分布：北海道～沖縄

開花時期：8～10月

沈水植物

在来種

湖沼やため池、河川、水路に生育する多年草。外来種である南米原産のオオカナダモや北米原産のコカナダモと似ているが、葉が3～8枚で、縁に鋸歯が目立つことを確認できればクロモである可能性が高い。



①クロモ・オオカナダモ・コカナダモの葉の比較。②水中のクロモ。光合成で生じた酸素が気泡になっている。③オオカナダモの生えている様子。④水中のコカナダモ。⑤クロモの雌花と⑥雄花。クロモには雌雄異株と雌雄同株の両方の株があることが知られていて、越冬芽の様子が違う。⑦オオカナダモの花。白くて美しいためか、たまにバイカモと間違えられる。